

レッパー^{くん}の もぐもぐサポートプロジェクト

静岡発。地域の課題を「好循環」に変える、
新しいCSRのカタチ。



NPO法人BASSplus (Bamboo And Sea Shizuoka)

NPO法人BASSplusとは

NPO法人BASSplusは、竹の可能性を追求し、環境保全と地域産業の活性を実現することを理念に2023年3月に発足した特定非営利活動法人です。放置竹林の伐採を行い、切った竹資源の活用を模索しています。

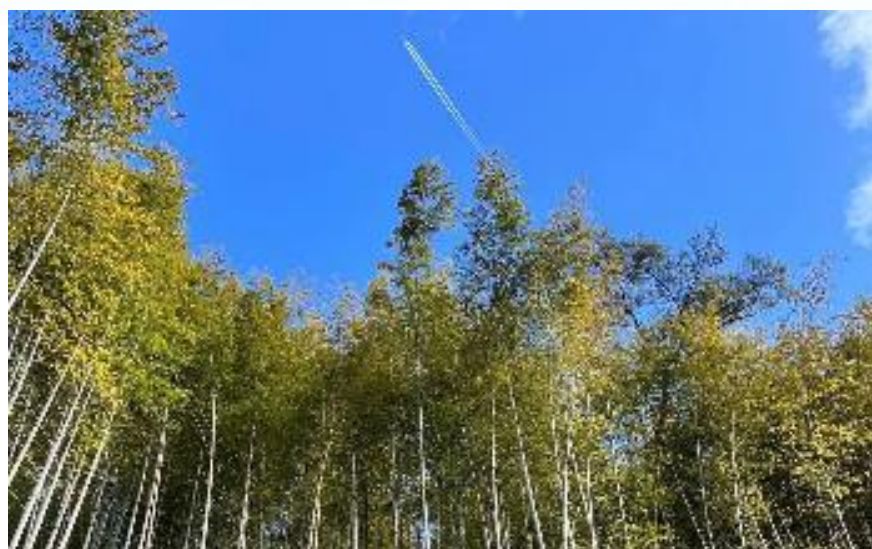
2023年3月3日に静岡市を拠点に発足

事業内容: 放置竹林の整備・伐採・管理、竹資源の活用とそれに伴うイベント事業等

ビジョン: 竹の可能性を追求し、環境保全と地域産業の活性化を実現すること

理事長: 知久昌樹 ビジネススタッフ: 2名 その他全員ボランティア

現在の活動エリア: 静岡市内(葵区新聞エリア、駿河区大谷エリア、清水区両河内エリア)



レッパー[☆]くんの
もぐもぐサポート
プロジェクト



とは。。。。

2つの地域課題を、1つのアイデアで解決する。



静岡市内の竹林整備団体が切り出した「竹の枝葉」を日本平動物園へ届け、レッサーパンダの飼料として活用する“Win-Win”の仕組みです。

【動物園】

レッサーパンダの主食である孟宗竹の枝葉(エサ)の安定確保とコスト削減。

【地域社会】

市内の竹林整備団体の「竹の処理負担」を軽減し、活動を資金支援。

【協賛企業】

地元密着型の分かりやすいSDGs貢献と、高いPR効果の獲得。

2つの地域課題：需要と供給のミスマッチ



「レッサーパンダ飼育」の悩み

日本平動物園は国内シセンレッサーパンダの種別計画管理を担い、8頭を飼育。しかし、主食である「孟宗竹」の確保に飼育員の負担が多く、さらに他県からの購入や価格高騰により、エサの安定確保が危ぶまれている。



静岡市に広がる「放任竹林」問題

管理不足による竹林の荒廃が進行。土砂災害や生態系破壊を防ぐため、市内100以上の市民団体が伐採活動を行うが、「伐採した竹の枝葉」の活用法・処理が難しく、大きな負担となっている。

NPO法人BASSplusが、2つの課題を「橋渡し」する。

整備で出た新鮮な竹の枝葉を、定期的に動物園に提供。

レッパー^{くん}の
もぐもぐサポート
プロジェクト



「レッパーくんのもぐもぐ
サポートプロジェクト」

切った竹の明確な「出口」を提供し、伐採・運搬の経費を支援。

BASSplusは「竹害」をプラスの力に変えるため、行政・市民・動物園を繋ぐ事務局として機能します。

静岡市認定事業 としての確かな実績とモメンタム

2024・2025年度
静岡市協働パイロット事業
採択

静岡市環境局環境共生課と連携し、
市の公式な社会課題解決スキームとして稼働中。

毎月**5~6回**

コンスタントな搬入実績。動物園のニーズに応える安定した稼働力。

17団体

事前説明会への参加団体数。
高い市民の関心を示す。

5団体

レギュラーで稼働・固定化している伐採団体ネットワーク。

現場の熱量：山から動物園へ繋がるバトン



1. 伐採と選定

(急斜面の放任竹林に入り、パンダが好む
適齢の枝葉をある程度選定・伐採)



2. 運搬

(燃料費高騰のなか、伐採団体ボラン
ティアが自らの車で動物園へ直接搬入)



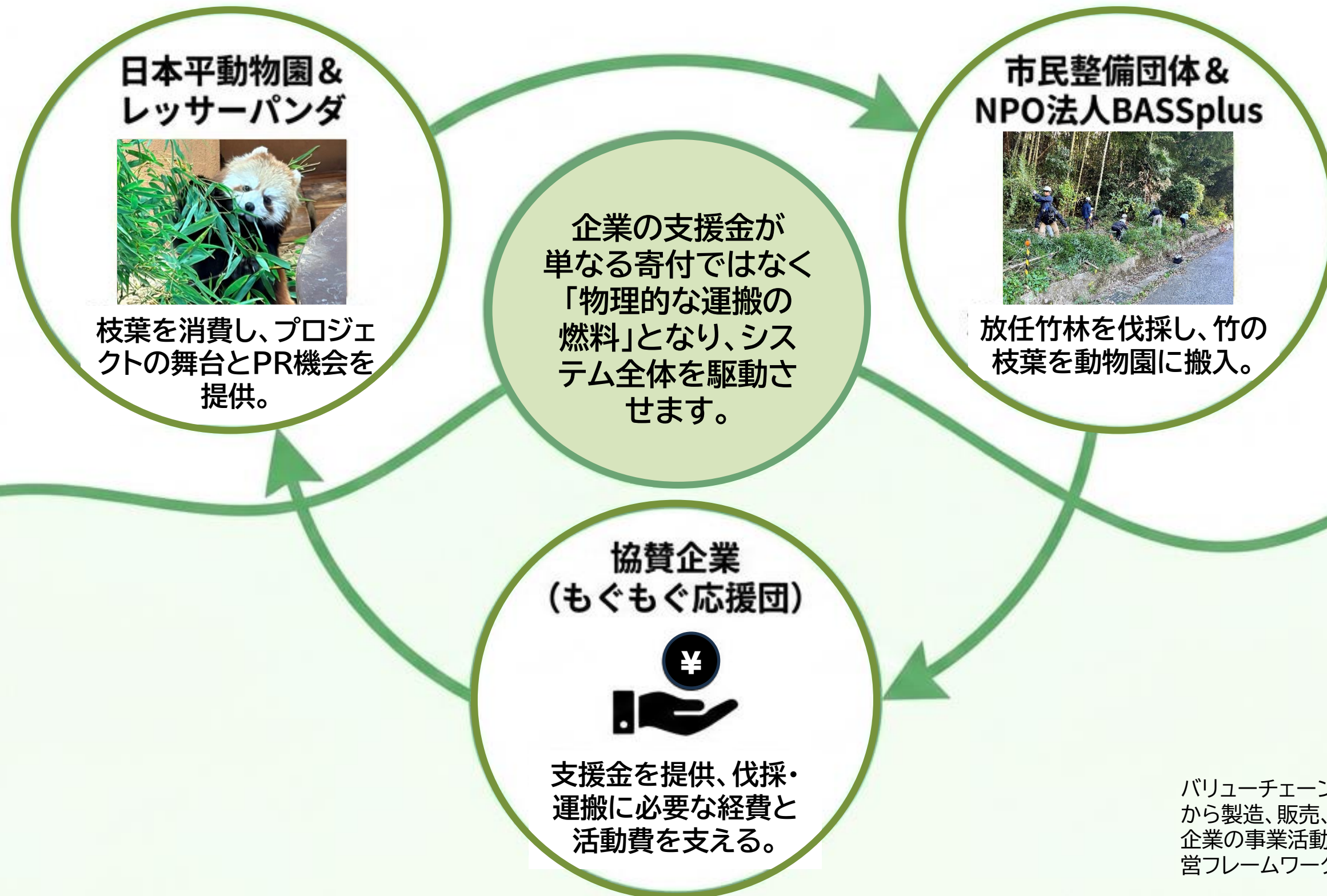
3. もぐもぐタイム

(届けられた新鮮な枝葉をその日のうちに
給餌も可能。完全な地産地消を実現へ)

全ての参加者が恩恵を受ける「三方良し」の構造

ステークホルダー	従来の課題 (Before)	プロジェクト導入後 (After)
日本平動物園	飼育員の負担増、飼料代の高騰、他県からの仕入れ費用。	市内産(地産地消)の新鮮な竹の枝葉を低コストで安定的に確保。
竹林整備市民団体	切った枝葉の処分に苦慮。運搬・活動費は自己負担。	枝葉に「エサ」という新たな価値が誕生。活動資金の分配により持続可能性が向上。
協賛企業	一般的で他社と差別化しにくい画一的なCSR活動。	「動物保護」と「地元環境保全」を同時に実現する、独自性の高いSDGs貢献と高い可視性。

資金・資源・PRが循環する「バリューチェーン」



バリューチェーン(価値連鎖)とは、原材料の調達から製造、販売、アフターサービスに至るまでの企業の事業活動を「価値の連鎖」として捉える経営フレームワークのことを言います。

個々の活動が連携することで「価値(バリュー)」を産む

ストーリー

「レッサーパンダの飼育」に、

「地域の放任竹林対策」に取り組む
「市民団体の活動」が連動し、

「餌となる孟宗竹の葉を届ける」。

それを「企業が応援する」。

価値(バリュー)

▶ 市内の放任竹林の伐採で得られた孟宗竹の葉っぱを
「レッサーパンダの飼育」に役立てる日本平動物園
⇒市民が育てる日本平動物園

▶ 地域の放任竹林対策をするだけでなく、日本平動物園の「レッサーパンダ」のために、その作業で出た孟宗竹の枝葉を日本平動物園に届ける「市民伐採団体」
⇒「レッサーパンダのために」ボランティアとして参加したい！

▶ 地域の放任竹林対策での伐採作業が、「レッサーパンダの餌」を確保するための作業となる
⇒「レッサーパンダの飼育」の自分事化

▶ この一連の作業を応援し、関わることで、企業としてのCSR活動の一助となる
⇒ステイクホルダー(顧客・社員・取引先など)の竹の枝葉確保作業への参加行動へ

広がるネットワーク：次世代への教育と産学連携

しッパくんの
もぐもぐサポート
プロジェクト



静岡大学とのボランティア授業連携

後期授業で単位を獲得できる公式ボランティアとして、学生たちが実際に竹林伐採に参画。



環境サークル「ぐりんぐりん」との協働

静岡大学の伝統的な環境サークルと連携。単なる伐採作業にとどまらず、竹材活用の研究開発(座学・実験)など、学術的なアプローチへの展開中。

企業協賛は、里山保全だけでなく「地域の環境リーダー育成」への投資にも繋がります。

圧倒的なメディア注目度とPRバリュー

「課題解決の一石二鳥」として、県内主要メディアが続々と報道。



メディア実績：

- 8月：静岡新聞 掲載
- 9月：静岡朝日テレビ「とびっきり静岡」
- 10月：テレビ静岡「ご当地タイムズ」
- 12月：SBSテレビ「LIVEしずおか」／@Sしずおか

レッサーパンダという愛されるキャラクターと、SDGs課題解決の組み合わせが、高いニュースバリューを生み出しています。

協賛企業のSDGs・CSR目標に直結するプロジェクト

環境保全

陸の豊かさを守ろう
(SDG15)

放任竹林の駆除による土砂災害防止と、里山の私物多様性回復への直接的な貢献。

地域経済

住み続けられるまちづくりを
(SDG11)

竹の地産地消モデルの構築と、市民整備団体への持続可能な活動資金の還流。

パートナーシップ

パートナーシップで目標を達成しよう(SDG17)

企業、行政(静岡市)、動物園、市民団体、NPO、大学が一体となる強固な地域協働モデルへの参画。

「レッパーくんのもぐもぐ応援団」協賛プログラム

企業規模やCSR予算に合わせた3つのパートナーシップをご用意しています。（期間：1年間）



ゴールドパートナー

20万円/税抜

- 動物園内看板ロゴ掲出
- 動物園で配布するチラシへの紹介
- WEB／SNSロゴ掲出(特大)
- オリジナルグッズ提供
- 竹の枝葉切り／筍堀り体験イベントへの参加
- プロジェクトロゴの利活用権

シルバーパートナー

10万円/税抜

- 動物園内看板ロゴ掲出
- 動物園で配布するチラシへの紹介
- WEB／SNSロゴ掲出

グリーンパートナー

5万円/税抜

- 動物園で配布するチラシへの紹介(社名のみ)
- WEB／SNS社名掲出

ご清聴ありがとうございました。

事務局：特定非営利活動法人
BASSplus（ベースプラス）

設 立：2023年3月

